

いずれは医療保健を生業とする学生の皆様へ

東北大学医学部後援会副会長

大友 弘美



振り返ると平成 21 年は豚由来のパンデミック・インフルエンザウイルスの出現により、私の小児科診療所でも新型インフルエンザの治療やワクチン接種に振り回されました。職業は Vocation といわれ、その職業は神によってもたらされた天職という意味合いが強いと思われまます。天の声に導かれ、天の与えてくれた仕事を私達はしているのであり、自分の天職が小児科医であると思えば、インフルエンザ流行中の忙しさにも頑張れるものであると考えております。

東北大学医学部をやがては巣立ち保健医療関係の職業を天職とする学生諸君に、天職をより魅力的に高める訓戒がないかと考えてみました。以前からいくつかの素晴らしい訓戒が存在しております。その一つを紹介します。

ある一人の男性が仕事の倫理規範を考え悩み、悩みぬいて微睡んだ時に、その男性の脳に神の啓示の言葉が突然聞こえてきます。それは次のような話です。

敬虔なクリスチャンであるハーバート J. テーラー (Herbert J. Taylor) が 1932 年に倒産寸前だった会社 (クラブ・アルミニウム製品会社) を再建する際、会社で働く人々のモラル向上の方法、倫理基準として提案したものがああります。ハーバート J. テーラー著「我が自叙伝」によると、働く人々が正しく考え正しく行動するための簡単

で覚えやすい行動指針を考えたが適当なものが考え付かず、自分で答えが見つからずに神に祈りを捧げたとき、暫くして無意識のうちに何やら紙に書き付けたものが「四つのテスト」であると述べています。自分で考えたものではなく神が与えてくれたもの、神の言葉であると云います。

四つのテスト (The Four-way Test) とは、1. 真実かどうか、2. みんなに公平か、3. 好意と友情を深めるか、4. みんなのためになるかどうか、という内容ですが、

テーラーは、「四つのテスト」を書いて約 2 年経った頃、「四つのテスト」の内容が全て聖書に記載されている事がわかったと云います。エレミア書第九章 23～24 章にのっているところの「・・・わたしを知っていること、わたしが主であって、他に、いつくしみと公平と正義を行っている者であることを知ることがそれである・・・」であると云います。いつくしみは「好意と友情を深めるか」と「みんなのためになるかどうか」に含まれています、公平は「みんなに公平」に含まれています、正義は「真実かどうか」に含まれているのです。

テーラーは職業の倫理基準を「四つのテスト」として提示しましたが、言行はこれに照らしてから行えば誤りが無いと述べています。この倫理基準は保健医療を生業とする者にとってもあてはまると考えています。



医学部 1・5 号館



医学部保健学科 A 棟

「学生なんでも相談室」設置について

医学部・医学系研究科 学生厚生委員会 委員長
医学系研究科 病理病態学講座 分子病理学分野 教授
堀井 明

現代は何かとストレスのかかることが多い時代となりました。青春時代の真只中といえども、メンタルヘルスケアの必要な学生諸君は数多くいます。川内キャンパスには全学の学生相談所がありますが、実際、メンタルヘルスに起因すると考えられる相談件数が増加しており、自殺等の最悪の事態も本学でも散見されます。

そこで、医学部・医学系研究科の学部、大学院生を対象に平成21年1月にアンケートを実施したところ、回収できた734名中の627名がメンタルヘルスで悩み、相談したいことがあると回答していました。

一方、学生相談所の平成21年3月発行の年報データでは、平成19年度の相談は779件ありました。学部学生は全学で約11,000人、大学院学生は全学で約7,000人ですので、約18,000人で約800人が相談に行っていることになります。5%近い学生が学生相談所に行くという事実が示しているのは、メンタルヘルスケアが必要な学生は決してまれな存在ではなく、普通の、当たり前前の学生である、ということを示している数字です。平成21年は新型インフルエンザが猛威をふるっていますが、12月末の時点で感染者数は学部学生1,200名のうち134名で、約11%となります。こう考えると、「メンタルヘルスケアが必要なこと」は「インフルエンザに罹ること」とあまり大きな違いがない、身の回りのありふれたことである、と考えられます。

一方、学生相談所の全相談件数の中で医学部・医学系研究科からの相談は26件しかありませんでした。医学部学生は約1,200人、医学系研究科の院生は約800人ですから、東北大学の1割強を医学部・医学系研究科の学生・院生が占めるわけです。人数と相談件数との間に、おおきな乖離が見られると考えられました。加えて、アンケートによるニーズと実際の相談件数との間にも大きな乖離があります。この原因の一つとして、川内キャンパスと星陵キャンパスが地理的に離れていることが障害となっている可能性も考えられました。そこで、川内の学生相談所と綿密な連携をとる準備を重ね、平成21年10月1日に「学生なんでも相談室」を開設いたしました。対象は医学部・医学系研究科の学生、週に1回、毎週水曜日の11時から3時までと限られた開設時間ではありますが、学生相談所と緊密な連携のもと、臨床心理士が相談員として待機しています。もちろん、受付担当者も専任の者で、プライバシーは厳重に守られ、相談内容は担当の相談員以外には決して漏れない体制です。

学生向けの案内掲示は図1のとおりです。

設置場所は星陵会館2階で、入り口の様子は図2、相談室内は図3のとおりです。

大学や大学院時代は、将来へのステップアップのための青春時代の貴重な時間です。現代では、心の悩みは、身の回りで、ごく普通に見られます。このために長い時間を悶々と過ごさざるを得ないとすれば、とても残念です。悩みが軽減、あるいは解消するのなら、限られた青春の貴重な時間がより有意義となることでしょう。もし「メンタルヘルスケアが必要かもしれない」という局面がありましたら、気軽に「学生なんでも相談室」

を利用していただきたいと思います。

学生なんでも相談室の開設について

【対象者】 東北大学医学部・医学系研究科の学生とその家族

【開設日】 祝祭日及び年末年始を除く毎週水曜日 11時～15時（要予約）

【申込み】 予約は電話、電子メールを原則とする。相談室開室の当日に直接来所も可。（当日、空枠が無い場合もあります。）
Tel : 022-717-8595（受付時間 9:00～17:00（土日祝祭日及び年末年始を除く））
E-mail : soudan@med.tohoku.ac.jp
（受付時間 9:00～17:00（土日祝祭日及び年末年始を除く））

【開設場所】 星陵会館2階保健室

【相談員】 臨床心理士のカウンセラー

【相談時間】 原則として1回50分

【注意事項】・ 電話、電子メールでの相談は一切行いません。
・ 電子メールでの申込みは、どのアドレスから発信しても結構です。また、件名には「学生相談」と記入してください。
・ 電子メールでの申込みについて、すぐに返事を差し上げられないことがあります。
・ やむを得ない事情で面接予約を変更したい場合、電話、電子メール、直接来所のいずれかの方法でその旨をお伝えください。
・ 初めての方は、予約時間の10分前に星陵会館2階第2集会室で、相談申込票を記入するとともに、相談室利用上の注意事項を確認してください。

平成21年11月1日
医学部・医学系研究科 学生厚生委員会

図1（案内掲示）



図2（相談室入口）

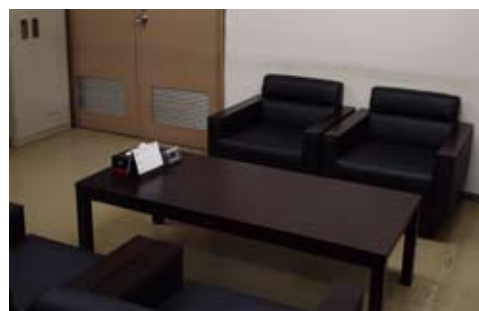


図3（相談室内）

2009年(平成21年)医学部オープンキャンパスが開催された

医学部オープンキャンパス実行委員会 委員長
医学系研究科 分子病理学分野 教授

堀井 明

2009年(平成21年)も例年どおり7月30日(木)、31日(金)の二日間にわたりオープンキャンパスが開催されました。医学部には1日目1,959名、2日目2,361名、合計4,320名が来場しましたが、アンケートを見てみますと、例年どおり参加者の95%が高校生で、うち高1が約6割、高2が3分の1、北は北海道から南は沖縄まで、更にアメリカからも複数の参加者がいました。東北各地の高校からチャーターしたバスでやってくる生徒も数多く、地元の東北地方の高校生が全体の8割でした。医学部だけでなく他の学部も訪問する学生も多く、大学が用意したシャトルバスを使ってキャンパス間をつないでいます。

オープンキャンパスは大学の公式行事ですが、医学科では2006年(平成18年)から学生諸君が中心になって企画・運営し、教員がまとめ役として働く形式で続いています。若い学生諸君の感性も盛り込んだ形で、年々進化させてきました。2008年(平成20年)より医学科と保健学科とが合同で運営しており、2009年(平成21年)には、医学部後援会と辛酉会からの援助もあり、そろいの青のポロシャツを作り、誰が担当の学生か一目でわかるようにしました。そのデザインも実行委員の学生の作です。加えて、参加者に記念のシャープペンシルも渡すことができました。

準備段階から、実行委員会の学生を中心に活躍が目立ち、新しい企画もいろいろ盛り込みました。図1に医学科の企画に対する参加者からのアンケートの集計結果を示しますが、大好評であったことが伺えます。

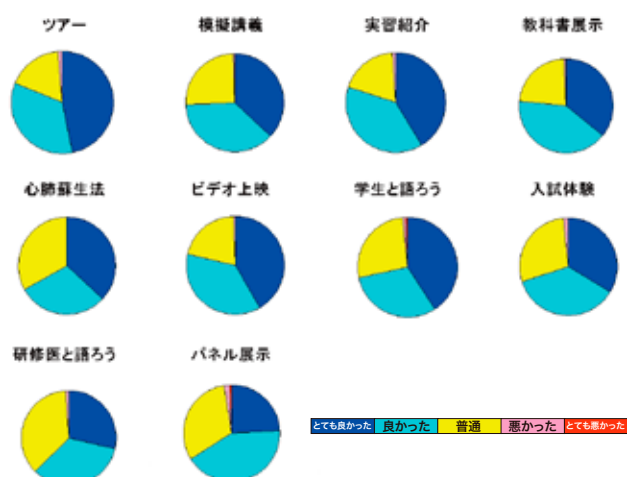


図1：参加者からのアンケートのまとめ

以下、当日の医学科の企画をいくつか紹介します。学生が引率するツアーでは、上級生と下級生のペアの学生がスモールグループの参加者を引率して学内のいろいろなところを案内します。その結果、多くの高校生たちはなかなかできない体験をして、非常に有意義な時間を過ごして帰ることができました。学生諸君による説明に加え、研究室でも教室員からの説明を聞きながら様々な見学・体験をしましたが、その一例を図2に示します。



図2：医学科案内ツアー
(上) 練習器具での縫合体験
(中) 術衣体験
(下) スキルラボで、練習器具での聴診体験
(参加者は普段できない体験をしました。が、きっと医学部への思いを強めて帰ったことと思います。)



図3：医学部での実習の体験
(上) 癌組織の顕微鏡観察
(下) DNAを目で見る
(実際に医学生になったつもりで学生実習を楽しんだことと思います。)

案内した学生諸君にとっても新鮮な体験となり、キャンパスの新発見、再発見の機会になったはずです。学生による実験実演コーナーもとても好評でしたが、ここでも上級生と下級生とで協力して医学部での実習のいくつかを紹介しました(図3)。

手術などのビデオ上映では、学生からの説明も入り(図4)、心肺蘇生実演(図5)、教科書展示(図6)、模擬講義(図7)、在校生から直接学生生活などの話を聞くコーナー(図8)などでも多くの高校生達が新鮮な刺激を受けて帰ったものと思います。さらに今年から開始した研修医と語るコーナー(図9)や、学生の視点での入試コーナー(図10)なども良い試みだったように思います。



図4：ビデオ上映
(学生による解説のあとでビデオ上映し、途中でも学生の説明が入ります。参加者達の理解も深まったことと思います。)



図5：心肺蘇生体験
(何かの時に必ず役に立つ知識が得られたことでしょう。)



図 6：教科書展示コーナー



図 7：模擬講義

(インフルエンザのパンデミックへの対応の内容でしたので、医学生として講義を受ける体験ができるとともに、タイムリーな内容なので、有益な知識も持ち帰ったと思います。)



図 8：学生と語ろうコーナー

(年の近い大学生なので、話もしやすく、和やかな中で、気楽に何でも話を聞けたことと思います。)



図 9：研修医と語ろうコーナー

(高校生たちは、未来の自分の姿と重ねたかもしれません。)



図 10：学生による入試体験談コーナー

(学生の視点で企画されておりましたので、高校生達には参考になったことと思います。このコーナーでは、教員による公式な説明も入り、これも医学部を目指す高校生達に有益であったと思います。)

看護学専攻では、4つの会場で看護6分野それぞれに参加型模擬講義を開催しました。どの会場も盛況で、写真のように実際に術後の患者さんのケア方法(図11)や妊婦体験(図12)を交えた妊娠出産に関する講義などが行われ、参加者は目を輝かせて参加していました。



図 11：術後の患者さんのケアの体験



図 12：妊婦体験

また、学生との相談コーナーも盛況で、高校生からの相談に熱心に応え、数年前の自分を思い出していた学生の姿がとても印象的でした。

放射線技術科学専攻では、「学生が魅せるおもしろデモンストレーション」と題して、学生が超音波診断や放射線測定の実験を、普段の勉学の成果としてデモンストレーションしました。また、今回より新たに「放射線技術科学専攻案内ツアー」を企画し、医学科と足並みを揃えました。

この案内ツアーでは、先端的研究が行われている大学院の放射線コース各分野研究室や、見学者の多くが普段足を踏み入れることができない放射線管理区域を中心に案内しました。1グループ20名程度を1回あたり5グループ、1日5回催行の予定で整理券を発行しました。しかし、保健学科の位置づけや方向性などもご理解いただけるよう構成を工夫したところ、放射線のみならず他専攻の見学希望者も雪崩れこみ大好評ぶりで当日は整理券が大幅に不足し、ツアーは増発に次ぐ増発で実行委員の学生からは嬉しい悲鳴が上がりました。特に、本年度の校舎建て替えに伴い新規導入された最新型のMRI装置(図13)やマルチスライスCT(図14)と、これらによって撮影された全身の3D映像(図15)などは、多くの見学者の興味と注目を集めました。



図 13：最新型のMRI装置



図 14：マルチスライスCT



図 15：全身の3D映像

検査技術科学専攻では、主に3年生で構成されたオープンキャンパス実行委員会が中心となり、学生による入試体験談や学生生活相談コーナーを設けると共に、受付や案内、施設見学、研究紹介(図16)等を行いました。

また、教員側も進学・カリキュラム・卒後の進路コーナーなどを設け、学生と教員のそれぞれの視点から高校生の持つ疑問や不安の解消にあたりました。更に、45分間の模擬講義(図



図 16：学生による研究紹介



図 17：教員による模擬講義

17) を2日間で計4回、4テーマから成る施設見学を2日間とも終日行い、各分野がそれぞれ趣向を凝らして、個々の専門分野に関してわかりやすく説明しました。

今年参加した高校生達の多くはとても良い刺激を受け、東北大学医学部をよく理解し、「入学したい」という気持ちを強めて帰ったことと思います。この中には、多くの未来の医学部生がいることでしょう。彼らは、次は大学生としてオープンキャンパスを運営してくれることと思います。また、今回ボランティアとして手伝ってくれた学生諸君は、来年以降、オープンキャンパスをより良いものに進化させてくれるものと確信しています。このサイクルで、優れた人材のリクルートと同時に、次世代の育成ができます。学生諸君はプラスになる経験を積み、今後、更に発展させたオープンキャンパスを企画・運営してくれるものと思います。今回のオープンキャンパスの成功の裏には後援会はじめ多くの方々のご協力がありましたが、この場を借りて感謝の意を表したいと思います。

第3回東北大学医学系研究科リトリート研究発表会について

第3回リトリート実行委員会

◇平成22年1月9日に東北大学片平キャンパス「さくらホール」において、大学院教育改革支援プログラム「ルネサンス計画」主催による『第3回東北大学医学系研究科リトリート研究発表会』が開催されました。この発表会は、大学院生が主体の会ですが、医学部生も9名が参加しました（総出席者162名）。

◇最初に、山本 雅之医学系研究科長・医学部長の開会あいさつに始まり、午前は口頭発表の第1部・2部が行われました。

ランチョンセミナーとして、医学系研究科生物化学分野五十嵐 和彦教授により「遺伝情報発現ネットワークから癌を考える」というテーマの特別講演が行われました。

午後は、1階フロアでのポスター発表に続いて、口頭発表第3部が行われました。丸一日を要した充実のプログラムで、学生、教官を問わない白熱したディスカッションが繰り返されました。

◇口頭演題15題、ポスター演題49題の中から、最優秀演題賞など8部門での表彰がありました。医学部生からは、太田 嶺人さん（医学部5年）と阿部 雅広さん（同6年）の2名がポスター発表を行い、その活躍に対して医学部後援会より特別演題賞が贈られました。

☆各受賞者は次のとおりでした。

【最優秀演題賞】

藤野 直也さん（運動学）

【優秀演題賞】

秋山 泰利さん（腎・高血圧・内分泌学）

鈴木 隆哉さん（呼吸器再建）

【最優秀ポスター賞】

藤田 理恵さん（医化学）

【優秀ポスター賞】

平野 育生さん（医化学）、小峰 啓吾さん（癌化学療法）

高島 健太さん（内部障害学）

【質問賞】

藤野 直也さん（運動学）、鈴木 隆哉さん（呼吸器再建）

黄 志 芳さん（腫瘍外科B）

【留学生賞】

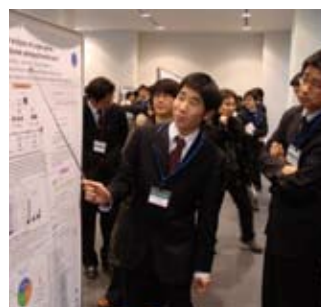
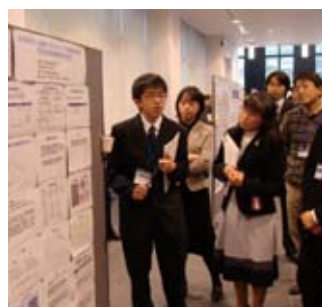
Won Fen Wong さん（分子免疫）

【BestChairperson 賞】

渡辺 祐子さん（小児病態学）

【特別演題賞】

太田 嶺人さん（医学部5年）、阿部 雅広さん（医学部6年）



医学部サークル活動と 学生生活について

医学部医学科3年
鈴木 悠



私たち医学部学生の生活は、テストや実習などの授業を中心として多少忙しいのですが、やはり大学生だけあって自由時間を作ることは可能です。

学生生活は大学内の勉強だけではありません。アルバイトに励む人、研究室に通う人など、さまざまな人がいますが、その中でも一番多いのはやはり、部活やサークルに励む人ではないでしょうか。

現在、東北大学医学部に在学する学生の半数以上が、部活動に励み、その成果を「東医体や全医体、看学戦」といった大きな大会の場で発揮しています。2009年度(平成21年度)の東医体夏季大会の結果を見ますと、今年度は18競技が参加し、弓道部が男子・女子個人戦および総合優勝するなどの活躍が見られました。大学全体では、東日本の医学部・医科大学37大学のうち、総合9位という成績を収め、冬季に開催されるスキー競技の結果次第では、さらに上位も狙える位置にいます。

部活やサークルには、初心者から経験者までさまざまなレベルの人間が集まり、それぞれの目標を達成するために日々練習に励んでいます。また、先輩・後輩などの人間関係の中で得られることも多いように思われます。さらには大会や合同練習などで、他大学の人との交流が深められるなど、さまざまなメリットがあります。

しかし、医学部という人の生命にかかわる学部の宿命として、もちろん勉強はハードです。それでも、部活やサークルに所属している多くの学生が、深夜0時まで開館している図書館を活用し、同級生はもちろん先輩・後輩とともに勉学に励んでいます。

また、同級生や先輩・後輩、更には他大学の学生とも交流をもち、勉強に関することや、進路の話や将来の話、もちろん他愛もない話までさまざまな話をし、生涯にわたる人間関

係を構築し、自分自身が一人の人間として成長しています。私たちがこのように充実した日々を送れるのも、130年以上に渡る東北大学の歴史と、その中で歴代の先輩方が築いてこられた伝統が存在しているためと感じています。

このような歴史ある東北大学の伝統に誇りを持ち、後輩たちにつなげていけるように、一人の東北大生として夢の実現に向かって日々努力していきたいと思っています。

本年度から、私たち医学部学生会に対して、医学部後援会から多大な援助をいただいております。各サークルの運営費として活用しましたので心より感謝申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。



平成21年度優秀学生顕 彰事業・学術部門大賞 の受賞について

医学部医学科6年
長 沼 透



私は、東北大学医学部に入学して2年目に本学部公衆衛生学分野の疫学の勉強会に参加させていただくようになり、その後も疫学の研究に携わらせていただきました。

元来、社会学に関心を持っていた為に同分野の門を叩いたのですが、疫学の美学とその奥深さに魅了され、素晴らしい

先生方の厚いご指導の元で卒業までの5年間で3本の疫学研究の論文を発表することができました。

この度、その成果を評価していただき、日本学生支援機構より平成21年度優秀学生顕彰事業の学術部門大賞を受賞することになりました。

また、昨年1年間は、東北大学の派遣留学生として、アメリカのワシントン大学公衆衛生大学院疫学専攻課程に留学させていただきました。そこで広い世界を目の当たりにし、見識と世界観を更に深めて帰って来ることができました。卒業後は3年間の初期臨床研修に従事しますが、そこで培った臨床の感覚と、これまでの研究や留学の経験を生かして、将来は予防医学の発展に貢献していきたいと考えています。

東北大学に入学して

医学部保健学科検査技術科学専攻1年

高橋 日和

私が東北大学に入学して早くも1年が経とうとしています。期待と不安を抱いて入学しましたが、日々新しい発見や刺激を受けて充実した日々を送っています。

入学してから驚いたのは、にぎやかな部活動勧誘でした。入学式の後、様々な部活動に勧誘され、入学を祝福されているようでとても嬉しかったです。迷った結果、私はある医学部の運動部に入部しました。大会で北海道に行ったり他大学の学生と交流をしたりと、部活に入っていないとできない経験もできました。練習がつかったり、帰宅する時間が遅くなったりと大変なこともありました。しかし、優しい先輩方やにぎやかな仲間たちに囲まれ、入部してよかったと思っています。

入学する前に最も不安だったのは学習面でのことでしたが、

大学では自分が興味のある講義を選択することができるので、積極的に講義を受けることができ、充実しています。専門科目もいくつか始まっていますが、これらは自分の将来につながるものなのでより意欲的にのぞんでいます。本格的な専門科目はこれから始まるので、向上心を忘れずに努力していきたいです。

様々な国からの留学生や自分とは全く違った価値観を持つ人、大きな夢を持つ人など、大学には様々な人がいます。医学部に限らず様々な人たちと交流を深めることで、自分を見つめ直すことや、新たな発見をすることができます。しかし、それと並行して、周りに流されすぎないような自分を確立することも大切だと思います。人からの影響は、決してよいものばかりではありません。それを見極めながら大学生活を送っていききたいです。

専門の知識・技術を身につけるのはもちろんのこと、全学教育や様々な人との交流を通して、広い視野をもった医療従事者になることを目標に、日々精進していきたいと思っています。

私の大学生活について

医学部保健学科放射線技術科学専攻1年

大内 久夫

各地から様々な人が集う場所である大学！

ほとんど初対面であった放射線技術科学専攻のメンバーが打ち解けるのは時間がかからなかった。仲がよいグループで大食い挑戦することをはじめとして多くのイベントが行われた。クラス単位では親睦会、秋には芋煮会が開催された。

今後数多くの楽しいことが企画されることだろう。勉学においても協力して取り組んでいる。疑問や難問に遭うと、理解できた人を中心に教えている。病欠してしまった講義のフォローもしあっている。

また、私は大学祭のスタッフをしている。11月下旬の本番に向けて春から準備をしていた。その中で他学部の教務や企業

への電話掛けといったことは社会勉強になった。当日は、時間が迫る中での体力勝負の場だった。あっという間に迎えた最終日の夜、そのときの達成感は素晴らしいものだった。思えば、よく分からないまま自分の担当が決まり、目の前の仕事をしてきた。多くの人にかけてしまった迷惑を次回までに改善しなければならない。すべき仕事を教えてくれ、努力を認めてくれる先輩の存在は大きい。多少、大変な仕事でも頑張ることができた。大学祭スタッフは2年生で引退である。今度は自分たちが上級生だ。

サークルは他に学友会書道部に所属している。書道は大学から新たに始めたことだ。同時期に始めた人、10年以上続けている人、既に師範の人、書道歴は色々だが学部1年生から院生まで幅広く交流している。練習日に都合がつかないこともあるが、少しでも多く参加していこうと思う。

1年生の今年、私は多くの人と知り合った。来年もまた楽しみである。

私の大学生活について

医学部保健学科看護学専攻3年

富樫 宏朗

本当に早いもので大学に入学してから3年が経ちました。特に3年生になってから、ものすごい速さで月日は流れていきました。それだけ充実した大学生活を送れているのではないかと思います。というわけで、ここ最近の私の生活について、簡単に書かせていただきたいと思います。

まずは、実習です。平日毎朝8時から16時30分まで、東北大学病院やその他の施設で行われます。朝とても早く起きなければならなかったり、家に帰ってからいろいろと調べ物をしなければならなかったりということで、かなり疲れます。そのため、何とか毎日最低6時間の睡眠は確保しています。辛い実習を無事に乗り越えるためには、自分の体調管理が一番大切だと身にしみて感じます。

また、最近は、土日のありがたみをひしひしと感じています。友人には、土日に実習の記録やレポートを終わらせるという人

が多くいますが、私は、後顧の憂いなく土日を遊び倒したいので、金曜の夜に何が何でもレポートを終わらせ、土日は実習のことは一切忘れて好きなことをするという感じで過ごしています。

次に、部活動です。私は学友会陸上競技部に所属しています。実習期間中は、週に1度練習に参加できるかできないかという状態で、ついつい運動不足になりがちです。しかし、最近食べる量が増えてきているので、体重が激増しており、行ける時にはなるべく行くようにしています。やはり、部の仲間と一緒に走るということで、実習で溜まったストレスも吹き飛び、身体が軽くなるような気がし、本当に軽くなります。

今年は競技面での成績は芳しくありませんでしたが、来年はいよいよ私の10年間の陸上人生の集大成なので、実習が終わったら、本気で部活にも取り組もうと思っています。

今の生活は本当に大変ですが、反対に今の自分が一番生き生きしているのではないかと感じています。

くだらないことをだらだらと書いてしまいましたが、こまめで読んでくださり、ありがとうございました。

医学部後援会主催『入学記念祝賀会』参加への御案内

平成 22 年 4 月に医学部 (医学科・保健学科) に入学する新入生及び保護者を対象とした「入学記念祝賀会」を開催いたします。

当日は、在学中の勉学や学生生活などの様子について医学部教職員及び在学生との懇談もあります。

つきましては、後援会会員の皆様におかれましては、後援会入会後の会員同士が集う良い機会と思われましますので、会員同士お誘い合わせのうえ是非御出席くださるようお願いしております。

- ☆ 日 時：平成 22 年 4 月 6 日 (火)
午後 1 時 30 分から
- ☆ 会 場：ホテル・メトロポリタン仙台
(仙台市青葉区中央 1 丁目 1-1)
TEL：022-268-2525)
- ☆ 会 費：無料です。
- ☆ その他：軽食を準備しておりますので、昼食を摂らずに参加願います。
：事前のお申込みは不要です。

医学部後援会事務局



編集後記

医学部後援会が発足しまして、丸 2 年が経過しようとしております。

初年度 (平成 20 年度) は、新入生保護者及び在校生保護者合わせて 300 名以上の皆様から会員に御加入いただきました。また、二年目 (平成 21 年度) も新入生保護者及び在学生保護者合わせて 200 名以上の皆様から会員に御加入いただきました。

多数の皆様から後援会への御協力・御理解をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

この二年間において、4 月初めの入学記念祝賀会の開催、入学直後の新入生オリエンテーション開催への助成、7 月下旬に開催されたオープンキャンパスへの助成、学生の課外活動への助成、3 月下旬の卒業謝恩会への助成など諸事業を行いました。これらに対する事業の報告につきましては、その都度、後援会会報に掲載し報告されておりますのでご覧いただければ幸いです。

今後は、医学科及び保健学科において開催されます様々な行事への助成、学生の教育活動支援及び教育に要する設備補充などを行い、医学部全体の充実をより一層図っていきえるようにしたいと思います。また、新入生や在学生を対象にした行事に対しても助成する予定でおります。

ご子息やご息女が医学部に入学後、多くの専門性を短期間

に身につけて成長していることを、保護者の皆様は折に触れて感じていらっしゃるのではないのでしょうか。

医学部後援会では、医学部学生が学業だけではなく、クラブ活動やサークル活動にも積極的に参加し大学生活でしか体験できないような機会をできるだけ多く積み重ねることができるよう支援できればと願っております。

なお、医学部後援会のさらなる発展・充実のために、会員の皆様の寄稿をお待ちしております。

後援会事務局あて、郵送又は電子メールでも結構ですので、御寄稿していただきますようよろしくお願いいたします。

医学部後援会事務局



附属図書館医学分館



東北大学医学部後援会事務局

〒 980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1
TEL : 022-717-7870 E-mail : med-koen@med.tohoku.ac.jp
<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>